スタジオコースの作品から
2013

学部の4回生は毎年「スタジオコース」と呼ばれる設計演習課題に取り組むことになる。それぞれの担当教員が独自のテーマを設定し、学生はそのテーマに応じて、自らの望むコースを自由に選択するといった、いわば卒業設計の前哨戦だ。その中から、2013年度は2コース3名の作品をここに紹介する。

歴史と接続する建築

佐々木 良介

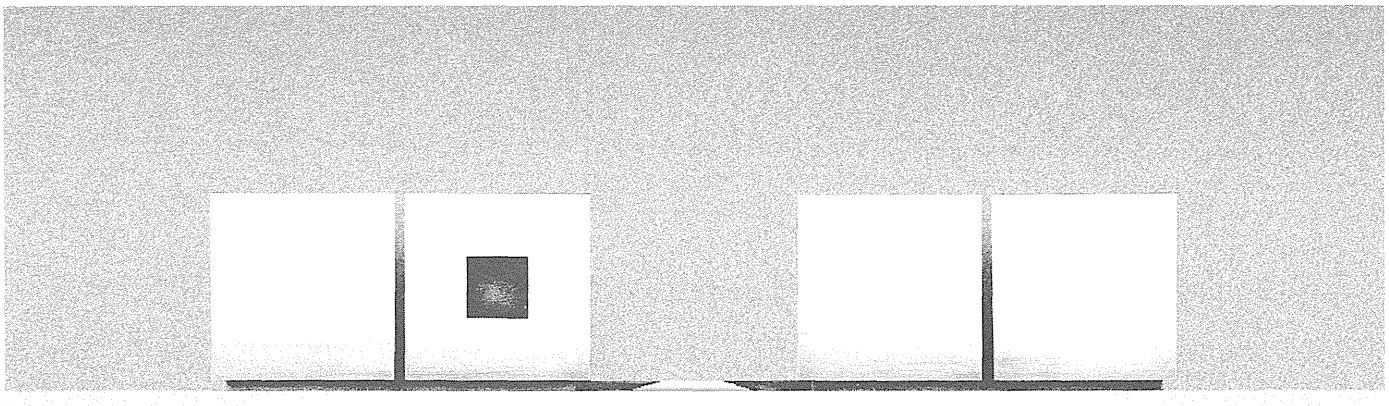
三原 一哲

都市と建築には、それぞれに光と闇を内包した歴史がある。われわれがこれから新たに構想する建築物は、そうした歴史にどのように対峙し、継承してゆくことができるだろうか。本課題では時代の奔流を生き抜こうとしている都市ミュンヘンの文化的地区の美術館計画の課題を通して、このことを問うてみたい。

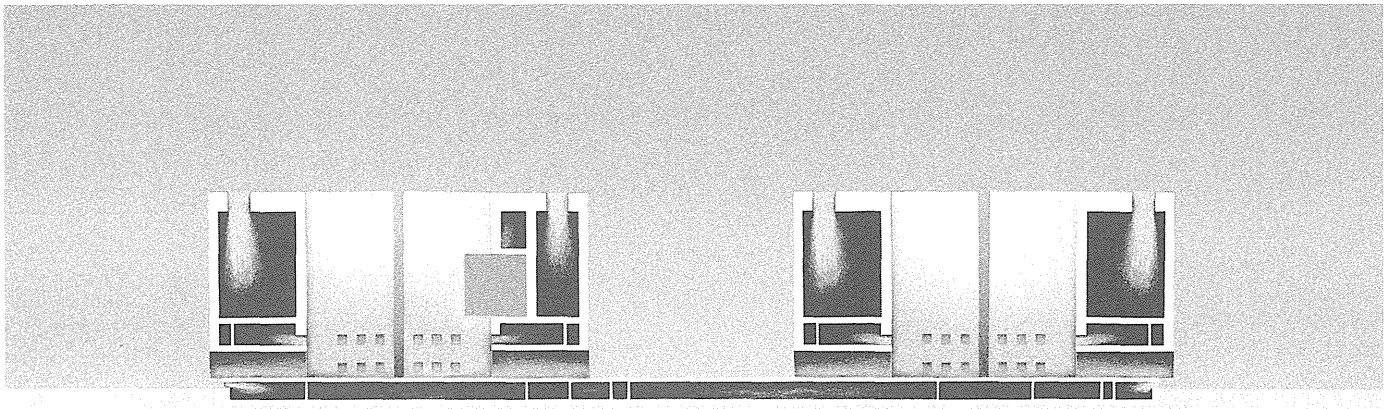
都市と建築

三野 春樹

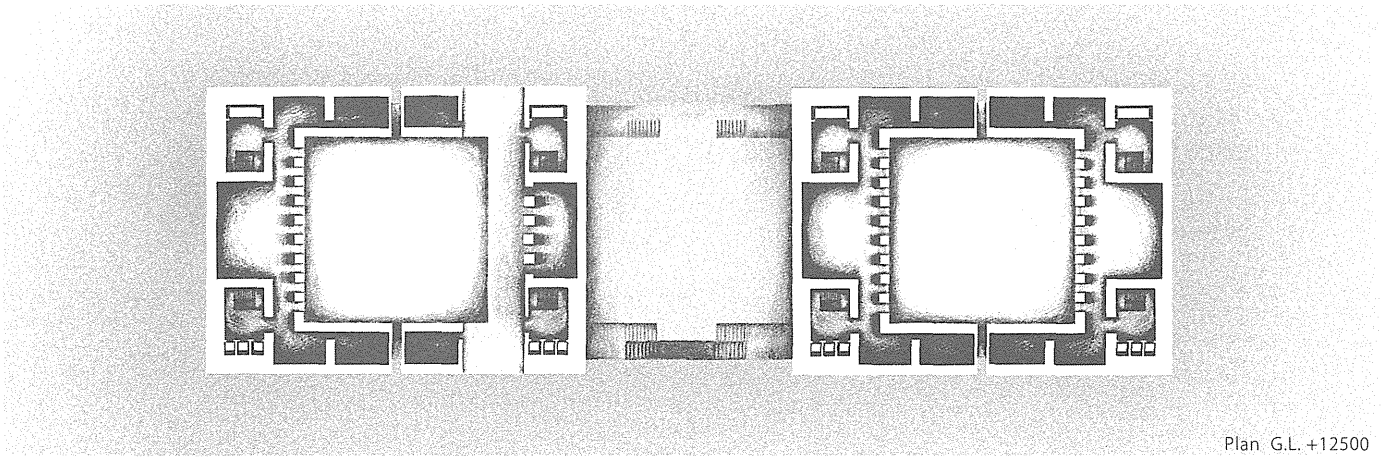
21世紀を迎えて、大量生産、大量消費を基調としたデザインが行き詰まり、環境や社会の制約条件などを考慮して、幅広い要求を質的に満足するデザインへの転換が求められている。そこでは、デザインを「人間と環境との関係に変化をもたらす」営みとして理解し、個々の人工物のデザインにとどまらず、人工物相互の関係や人工物と環境・人間との関係に配慮することにより、豊かな環境・社会システムをデザインすることが求められている。都市の中の建築は、他の人工物や人間・環境とのネットワークを形成する結節点として存在する。このスタジオでは、「都市と建築」のダイナミックな関係に焦点を結び、京都という都市をフィールドとして、ミクロな建築レベルの環境のデザインを通して、マクロな都市レベルの環境をデザインする可能性を探求する。具体的には、歴史都市・京都の都市空間に「魅力的な場所と風景を創発する新しいタイプの建築（の集合）」を提案する。



North-east elevation

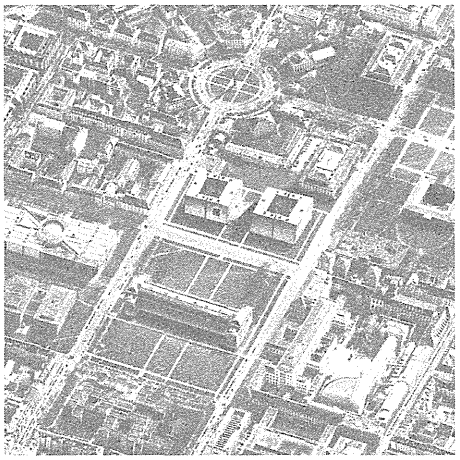


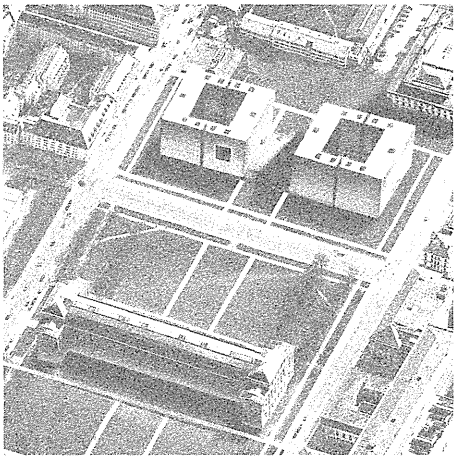
Longitudinal section

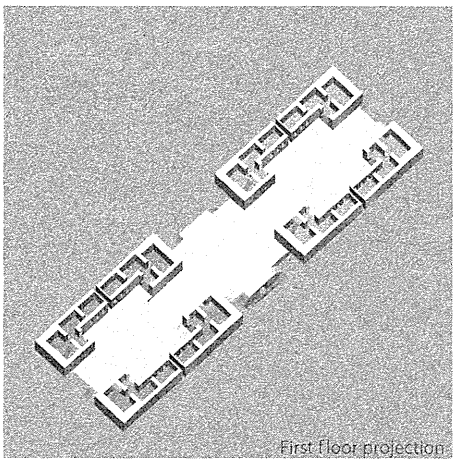


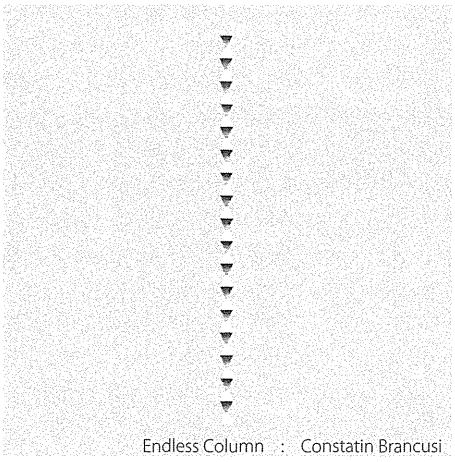
Plan G.L. +12500

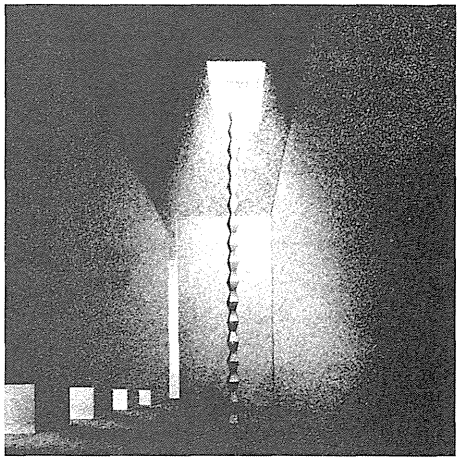
たゆたう建築 — ミュンヘン現代美術館計画案
Floating Architecture — Plan for Museum of Comtemporary Art München

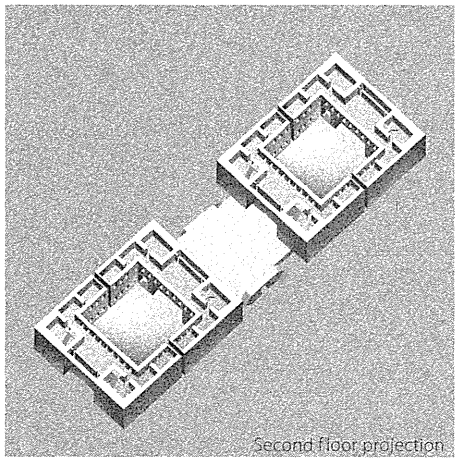


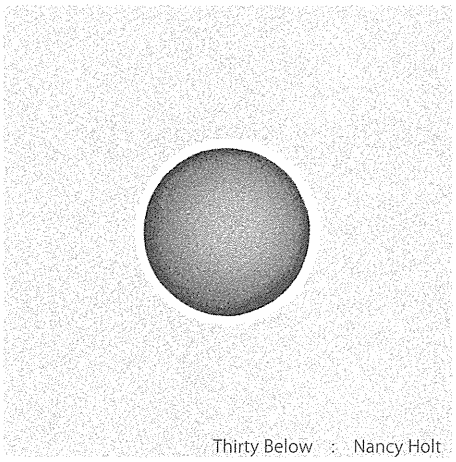


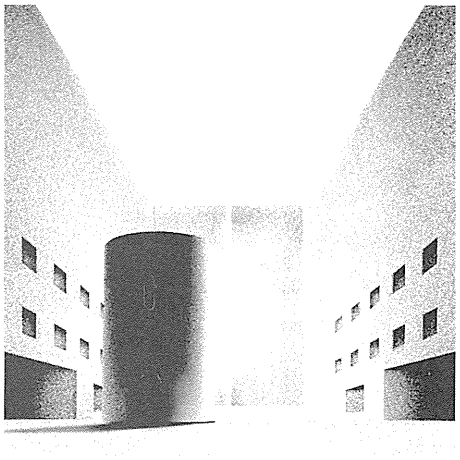


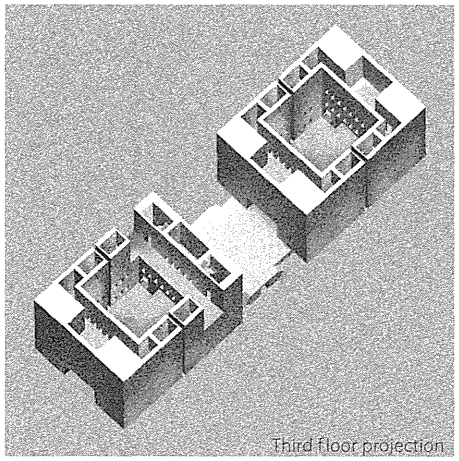


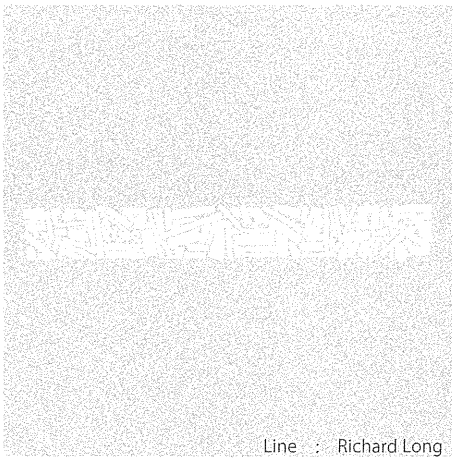


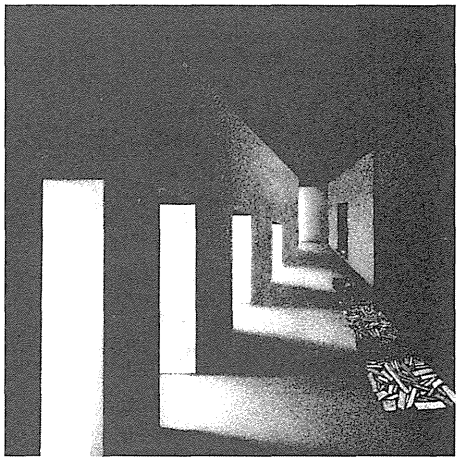








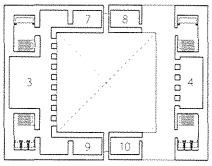


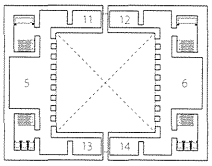


レオ・フォン・クレンツェによる新古典主義建築であるアルテ・ピナコテークに面する現代美術館の計画である．近代以降の秩序なき建築に囲まれたアルテ・ピナコテークと都市との連続性を取り戻すことを含め，建築と都市とがいかなる関係を取り結ぶかを主題とした．そのため，新たな秩序を獲得するべく正面性，都市軸ということを自ずと考えることとなった．また，内部はランドアート，インスタレーション等を行う32人のアーティストによる作品のための展示空間として設計した．

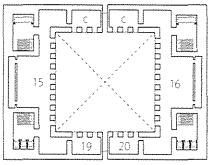
1 Nancy Holt
2 Richard Serra
3 C.Brancusi
4 Walter De Maria
5 Smyth Ned
6 Charles Simond
7 Christo
8 B. Michaed
9 Robert Morris
10 Robert Brendue
11 Bill Viola
12 Bruce Nauman
13 Nam June Paik
14 Dan Flavin
15 Arish Rapoor
16 Richard Long
17 Jenny Holzer
18 Junya Ishigami
19 Maya Lin
20 David Nash
21 Robert Smithson
22 James Turell
23 Richard Long
24 Alam Wood
25 B.William
26 C.Bridgeman
27 Henry David
28 Smith Ned
29 Sol Lewitt
30 Donald Judd
31 Bill Vazan
32 Isamu Noguchi

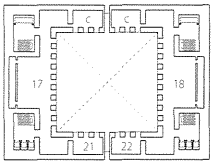
a 搬入口
b 荷解室
c 便所
d 警備員控え室
e 収蔵庫
f 応接室
g 学芸員室
h 事務室
i 更衣室
j 研究室
k 作業室
l 機械室
m 電気室
n メディア室
o ホワイエ
p オーディトリアム
q 小楽屋
r 楽屋
s 休憩室
t ショップ
u 受付
v 休憩室
w カフェ
x 図書室



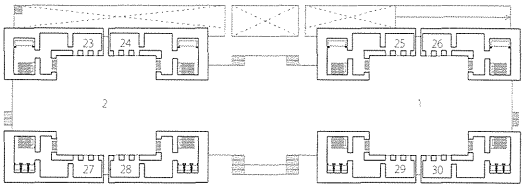


+12500

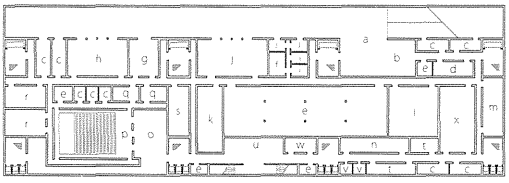




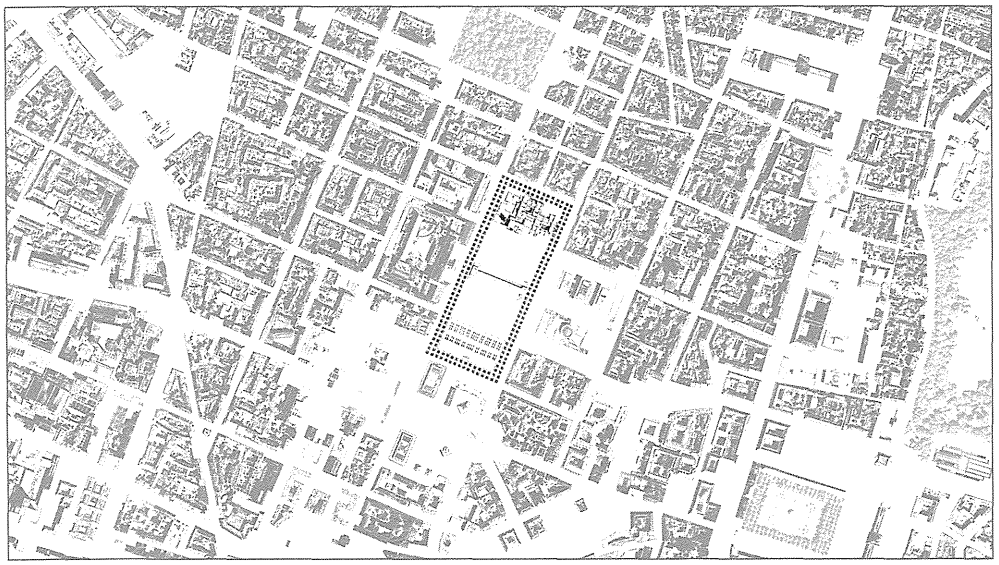
+7800



+3000



-1500 1.2200

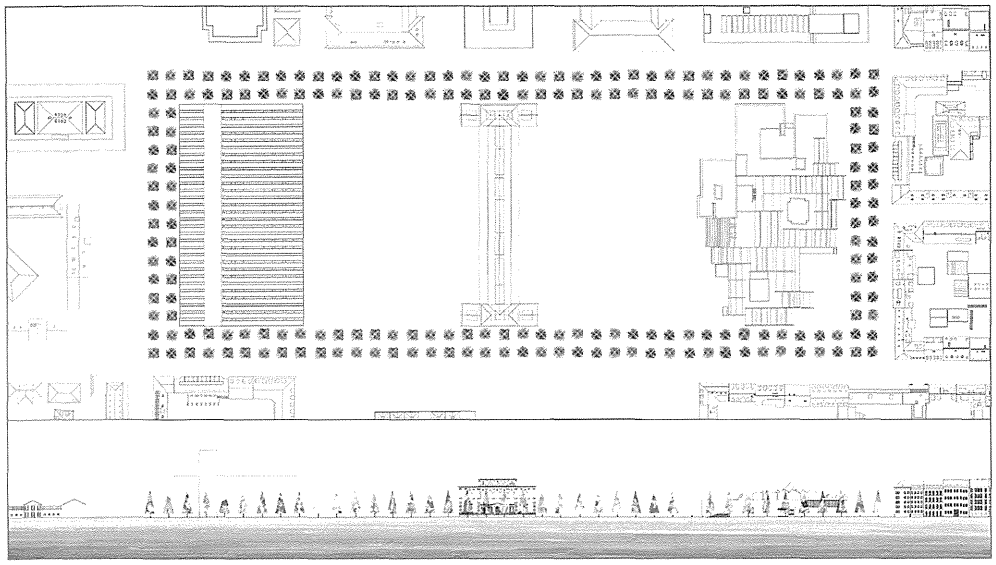


建築や都市には、それぞれに光と闇を内包した
歴史がある。そうした歴史にどのように対峙し、
継承してゆけるだろうか。

都市ミュンヘンにはそれぞれのオブジェクト、
エピソードが散りばめられている。
その折衷主義的な都市は開かれた都市であり、
いかなる刺激にも順応する受容力をもつ。

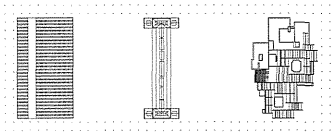
一方、20 世紀の都市は有害と目される
文化上の幻想の徹底的な排斥が主題であった。

2 世紀近く経った今、
ミュンヘン都市は、その折衷主義性ゆえに
自らの都市の力を失おうとしているのではないだろうか。



美術作品は様々な時代や文化背景を有し、
その時の人間が考えたことが表現されている。
そこに表現されていることは時代や文化を超え、
人類共通の財産である。
美術館は単に物を収集、保存しているのではなく、
過去、現在、未来という大きな時間を繋ぐ。

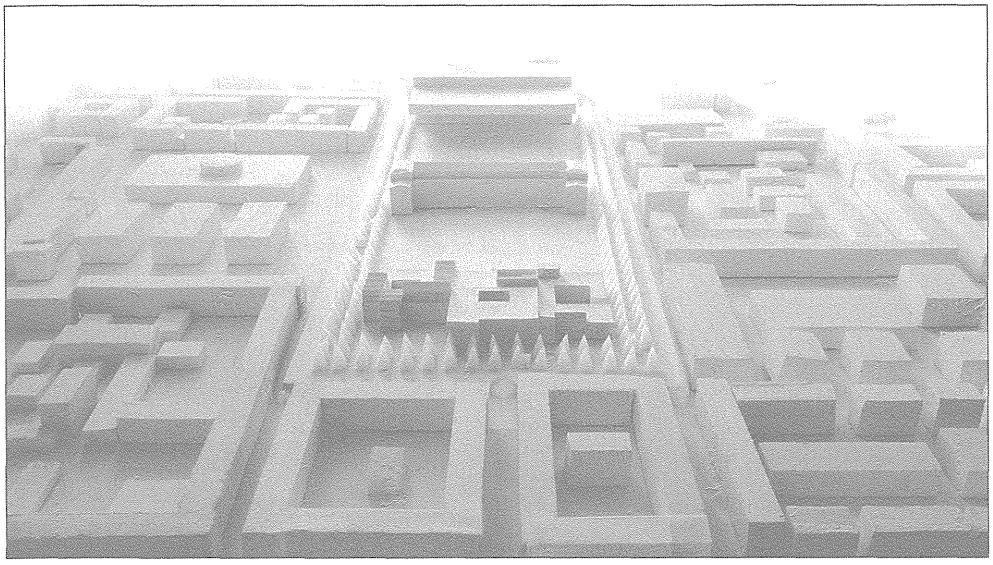
3 つの美術館を同じ街区に収めることで、
その 3 項はミュンヘン都市から孤立する。



Pinakothek der Foto
this project
（写真：コンテンポラリー）

Alte Pinakothek
built:1836
（絵画：中世～バロック）

Neue Pinakothek
built:1953
（絵画：ロマン派、ナザレ派、印象派）



万物の流通を決定する動線
という概念は 19 世紀的な理念であるが、
自由経済を促進し、有機的な全体性を象徴する
都市的な器官であることは今もさして変わらない。

垂直と水平の連続。

その二項対立を縦断する動線は唯一人間のための
ものであり、それゆえに有機性を体得する。

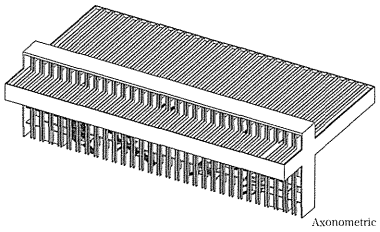
『垂直水平システムの空間が孤立をもたらすのに
対し、斜めの建築は交流をもたらす。』
とクロード・パランが彼の著書で述べている。

逆を考えると、自由経済以前の建築では
交流ではなく、孤立が主題としてあったのであろう。

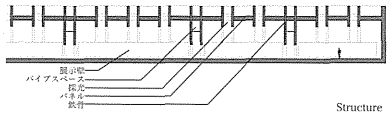
史　書　か　ら　乖　離　し　た　物　語

包囲し関係性を強化することを主題とする。
囲うということは物語を構築することである。
その物語は史書の流れに沿うことなく独自の生成過程を有する。

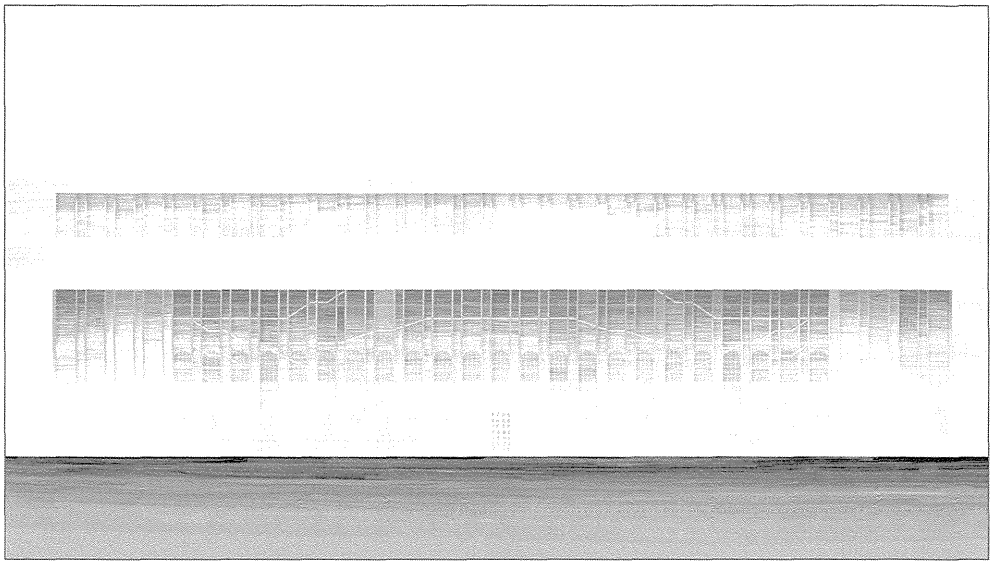
Perspective : Staircase (02)



Axonometric



Structure

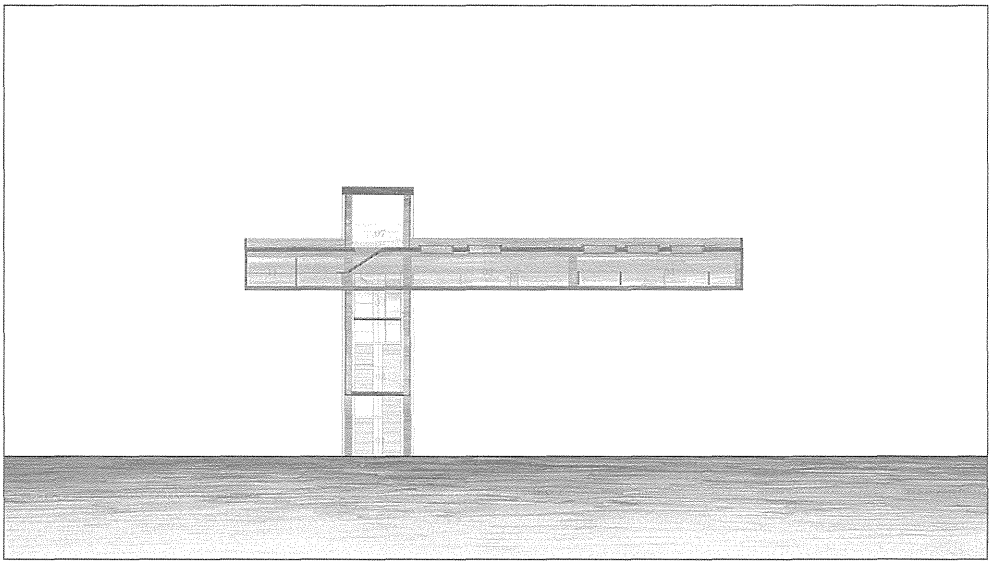


Pinakothek der foto

Concept

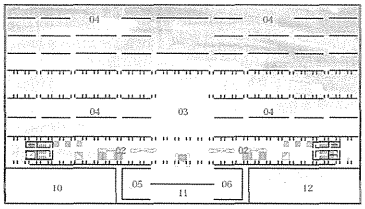
表現の自由と権利のシンボルであると同時に、
権力と金の象徴でもある写真は発明以来
論争の的や裁判沙汰になることが多く、
権力機関が度々ぶつかり合ってきた。

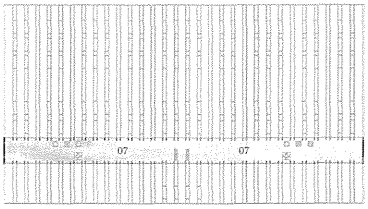
写真が発明された当時から現代に至るまで
問題となった数多くの写真を展示し、社会や文化が
その時代時代のイメージにどのような視線を
投げ掛けていたかを理解しようとするものである。

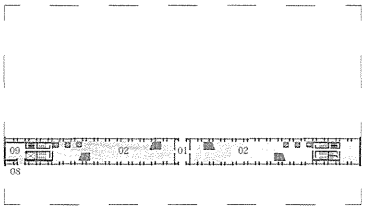


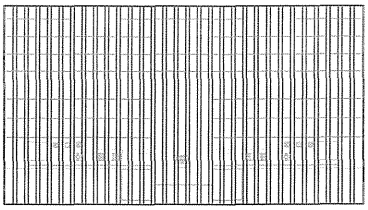
L - 1. Siteplan	○	1 / 18000
L - 2. Roofplan	○	1 / 4800
L - 3. East Elevation		1 / 4800
. Section X-X'		1 / 900
R - 1. South Elevation		1 / 1200
R - 2. Section Y-Y'		1 / 1200
R - 3. Voidplan GL+1500	○	1 / 3000
. Voidplan GL+28000		
. Voidplan GL+32000		
. Voidplan GL+35000		

01. Entrance
02. Staircase
03. Hall
04. Exhibition room
05. Acceptance desk
06. Museum shop
07. Lookout station
08. Service entrance
09. Unpacking room
10. Storage room
11. Office
12. Machine room









Perspective : Exhibition room (04)

E X H I S T O R I A

過去を現在、未来から断絶させることを主題とする。
過去は現在とともに点在し、未来は現在から連続して存在している。
点在する過去を展示するための美術館。

S - art village

site

京都駅周辺エリア

京都駅周辺、七条～九条の鴨川西畔は、都市開発が未完成の状態で、寂れた住宅街が広がっている。
現在の京都駅ビルとなってからはデパートや量販店も増え、京都の玄関口として一見栄えてきたようにも思えるが、
まだまだ京都駅周辺エリアは文化的なエリアとして成熟しているとは言い難い。

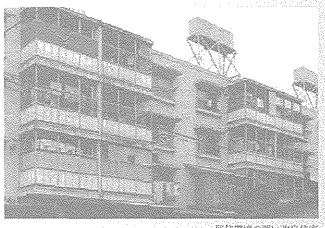
京都駅西側の梅小路公園と対となる文化の発信地を、京都駅東側に創り、このエリア一帯を変えていきたい。

problem

崇仁同和地区

都市開発が進められない理由の一つが、被差別部落「崇仁」の存在である。
昭和 35 年より始まった住宅改良法による京都市の住宅改良事業
（地区内の土地・家屋を周辺の一般地区より安い価格で買収し、
それを取り壊し更地として中層の改良住宅を建てるというもの）が原因で、
地区内では家屋や店舗の新築はもちろん増改築も一切まかりならない。
建物は減り、空き地だけが増え、商店は客が遠のき寂れる一方である。

京都駅の東の寂れた住宅街と空き地



居住環境の悪い改良住宅

proposal

京都駅周辺エリアは、前衛芸術の器としては最適な場所なのではないか。

海外の例と近似する。
1970 年代にアーティスト街だったニューヨークの SOHO は地価が上昇し、
寂れていたチェルシー地区へとギャラリーが移転することで
最新アートの発祥地となった。
中心地から外れたエリアは土地の値段が安く、地元に密着しやすいため、
世界的に見ても最新アートの発信地になりやすい。

さらに交通の便もよく、近くに京都の文化的な吸引力＝鴨川がある。
アートは新しい価値観を切り開くものであり、差別の問題と相性がよい。

program

アーティスト・イン・レジデンス　の拠点となる　アートビレッジ

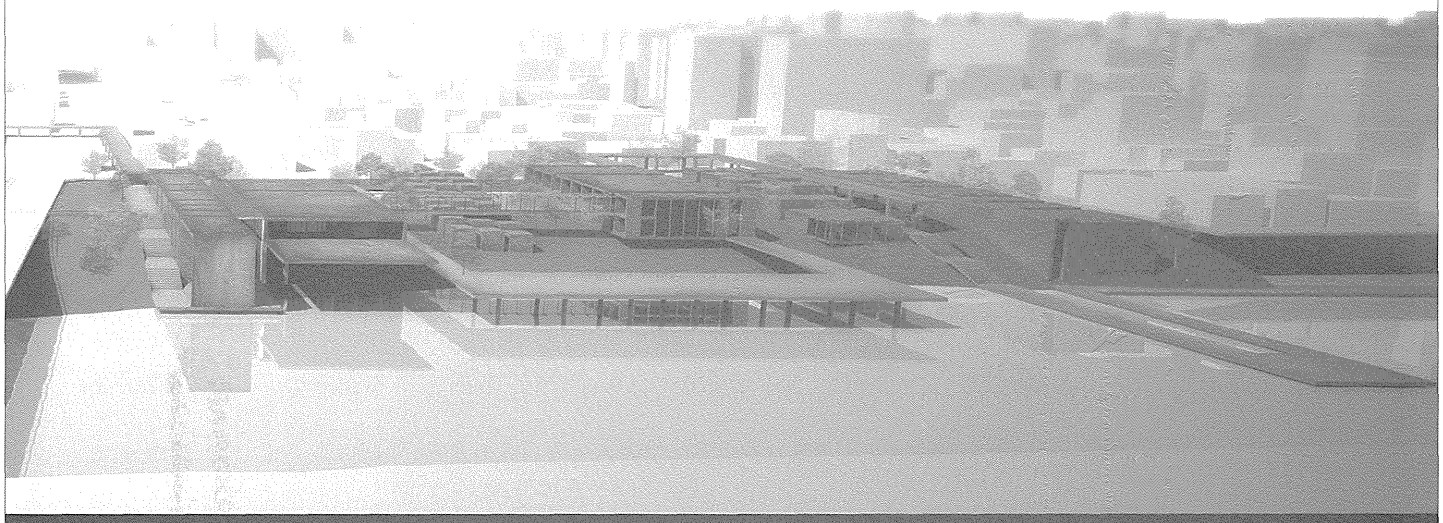
アーティスト・イン・レジデンス (Artist-in-residence program)

芸術制作を行う人物を一定期間ある土地に招聘し、その土地に滞在しながらの作品制作を行わせる事業

ここ、崇仁地区が

- 手つかずになっていた都市開発を進めるきっかけを作りだす
- 部落の差別意識の問題に立ち向かう
- 京都の現代アートの発信地として成長していく

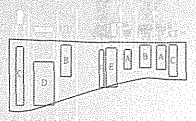
ための第一手として、アートビレッジを計画する。



layer system

アーティストが滞在制作をする目的は、日常とは異なる空間や文化の中に身を置き、インスピレーションを受けることで新たな創作活動の原動力を得ることにある。
複数のレイヤーを重ねることで多層的、多義的なランドスケープを作る。人や都市、自然をも含めた多彩な関係性を誘発する。

◆layer1 stripes function



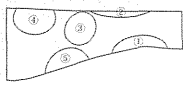
敷地西側の街区を延長し、
建築と外部空間の縞を形成。
分割された帯状の建築に、
それぞれ機能を与える。

屋外展示と崇仁の空き地が一体化し、
街にアートを浸透させる。

街と鴨川を直接的につなぎ、
人の流れと視線の抜けを創出。

東岸に対して開かれた表現をとる。

◆layer2 field

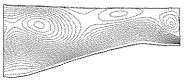


外部空間に木の疎密で「場」を作る。
木の疎密は人の活動の疎密も生む。

①野外劇場
　川に開く。演劇、インスタレーション
②廃れた街を緑で受けるバッファゾーン
③中央広場
　塩小路通が横断。人通り、にぎわい
④小高い丘
⑤野外展示場

建築内部は近接する場の属性を帯びる。

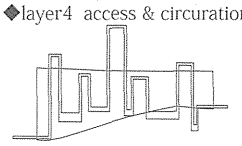
◆layer3 undulation



地表の起伏。

街のレベルと鴨川の水面のレベルを
ゆるやかにつなぐ。
傾斜の緩急や凹凸など、
断面に変化を与える。

◆layer4 access & circuration



蛇行するデッキ。
敷地全体を結ぶ回遊式展示動線。
デッキを辿ると、地形や建築と呼応し
シークエンスが様々に展開。

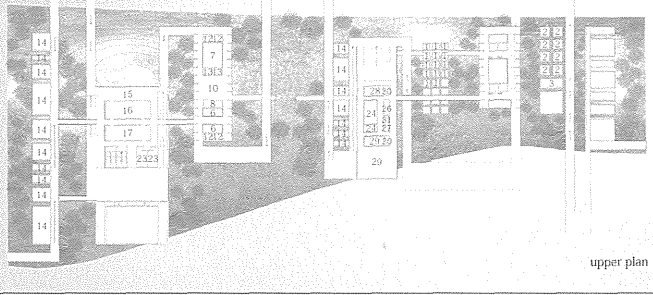
川床のように川にせり出し
水上展示やパフォーマンスの舞台に。
教育棟を貫通してホールのホワイエに。
と、様々な性格が付加される。

鴨川の遊歩道や崇仁の街へ延び
人を引き込みながら、アートが将来
街に浸透していくことを暗示する。

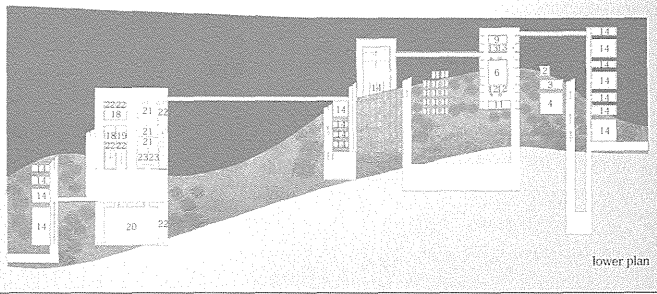
◆layer5 connection

物品の搬入、搬出、移動を
容易にかつ安全に行うため、
直線的でフラットな経路で
各機能の棟をつなぐ。

地下通路やブリッジとして現れ、
迂回するデッキと立体交差し、
双方の流れを遮断せず
適度な距離感を生む。



upper plan



lower plan

A. 宿泊棟
世界各地から招聘されたアーティストが宿泊する施設。アーティスト以外にも、観光客、地域住民も宿泊できる。

1. シングルルーム
2. ツインルーム
3. 浴室
4. ダイニングルーム
5. 共同キッチン

B. 創作棟
アーティストが創作活動をする空間。様々な創作活動に対応した機器や設備を揃える。外部から創作風景が見える。

6. 木工スタジオ
7. 金属加工スタジオ
8. AVスタジオ
9. 写真スタジオ
10. ワークショップスペース
11. オープンテラス
12. 倉庫・器具庫
13. WC

C. 展示棟
アーティストや市民が創作した作品を展示。アートを販売するためのショーウィンドウとなるところもある。

14. 展示室

D. 教育棟
市民のため、あるいはアーティストと市民の交流のための空間。地域の人、子供たちが自由に使える文化施設。

15. ワークショップスペース
16. 24時間解放の工房
17. 図書、資料室
18. 講義室
19. AVルーム
20. 多目的ホール
21. 練習スタジオ
22. 倉庫
23. WC

E. 管理棟
サービス関連、このアートビレッジ全体の管理をするための空間。
従業員、運営者のための空間。

24. 事務室
25. 会議室
26. 研修室
27. 応接室
28. ショップ
29. カフェ
30. 倉庫
31. WC